



南会津高校進路だより

**羅針盤** (2月増刊号)

第100号

2019年2月25日

進路指導部・発行

# 特集！南会津高校の先生が語る「大学受験の思い出」第5弾！



前号の事務室・斎藤さんに続く第5弾は、君たちの国語力アップのために日々奮闘中の岩渕未加子先生。時折見かける毅然とした生徒への向き合い方がとても印象的だ。私大最難関を突破した受験経験を持つ岩渕先生。それは人一倍の「上昇志向と負けず嫌い」が生んだ努力の賜物。だが、偏差値の高い有名大学に進学することが大事なのではない。そこに行く本当の価値は、大学名でも就職力でも教育力でもない。それはそこに集う人・

学生にある。そうした都会の大学には、高い学力を有するイキイキとした面白みのある学生が全国から数多く集まって来る。まさしく、難関大学へ進学すべき一番の価値は、志が高く尊敬できる才能豊かな学生・仲間との出会いなのだ。その仲間との出会いが、自分を磨き高め、生涯の財産となる。こうした集団で大学生活を謳歌してきた岩渕先生の体験談に刺激を受けて、一人でも多くの生徒の向学心に火が付き、受験のやる気スイッチがオンになることを期待したい。

## ★岩渕未加子先生「勉強漬けの高校生活が楽しい都会の大学生活へと結実」

とある少女の「大学受験」を語るには、十数年前の出来事から説明せねばならない。希望に胸躍らせて、すぐに現実を思い知ったあの時から…。

その年の五月。少女は高校入学後初めての考査を受けていた。いわゆる地域トップ校で自分の力を図る最初の機会だったので「自分なりに、万全の準備を臨んでいた。結果は学年8クラス320名中の11位で、十分に満足できるものだった。成績表の学年順位欄の隣、クラス順位5位を見るまでは。一瞬混乱した。8クラスあって、学年11位なのに、クラスで5位？辻褄が合わないのでは？と思った途端、クラスで4人と目が合った。(と少女は思っている。現実はその格好良いものではなかったはずだ。)文武両道のイケメンN君、奇跡の同姓同名読みだったダブル佐藤君、そして何の因果か少女と誕生日が同じだったW君。互いをライバル視した瞬間だった。同時に少女は悟った。「自分なりに、万全の準備をしたのに到底敵わない存在がいるのだと…。しかし幸い？ライバルの男子全員は理系に進むことが決まっていた。(何しろ全員医者の子である。)生来の負けず嫌いの少女は決めた。文系教科、特に得意な国語では譲らねえ…！と。元々、田んぼだらけの道を9年間歩き通し高校では素敵なお店で素敵な放課後を過ごせると夢見ていたのに、結局部活動と10kmの自転車通学で費やすことになった農家の娘は、思えばその時から、次こそ都会で素敵ライフを謳歌することと文系でトップを獲ることを目標にしていたのだった。

文系トップで都会に行くためには、日々の学習が欠かせなかった。そもそも国数英すべてで毎授業の予習と4～5ページの週末課題があったのだ。体力が無いのに準体育会系で腹筋・背筋・ガチランニングをする演劇部で活動してから自転車10km走をこなしては、次の日の授業を予習する余力など到底ない。暴挙に出た少女は、休日にその週の予習を終わらせて、平日は次週の週末課題を行うサイクルを作った。平日と言っても夜は前述の通りでヘロヘロなので、朝30分早く学校に行って自習した。数学1ページくらい余裕で進んだ。隙間時間も活用し、例えば始業チャイムが鳴っても諸事情で3～5分程度先生がいらっやらない場合はその教科の予習を進めた。おかげで、とことん苦手な数学は自然と最低3回類題を解く機会に恵まれて暗記でき、苦手な英語でも授業についていくことができ、特に得意な古典に至っては授業で扱わない教材まで全て品詞分解して訳してしまった。(それはそれで怒られた。「でもやりたかったんです！」と言った私に「じゃあしょうがねえ。」と言ってくれた先生は今でも私の憧れであ

る。)日本史は、定期考査で隔々まで出題されるので、定期考査ごとに教科書を隔から隔まで覚えるようにした。このやり方を3年間続けた結果、日本史の教科書はポロポロになり、古典文法書の表紙は2年冬に無事取れて、少女は結局「大学受験のための勉強、は英単語と英文読解しかしないまま、国語や日本史は過去問を数年分解いただけで合格圏内に到達した。(数学は論外である。暗記だけではセンター試験すら満足に解けない。)そして最終的に、志望校の中でも国語で1.2倍の傾斜配点がされる学部合格することができたのだ。

毎日勉強漬けではっきり言って「楽しなかった、高校生活だったが、努力の結晶として勝ち取った4年間の都会生活はこの上なく「楽しかった」。多くの出会いに恵まれ、都会ならではの経験を積み、遊びもおしゃれも覚えた彼女は、「大学受験」の数後に教員採用試験に臨み、ずっと武器にしていた国語で「直前に進学塾で教えていた古典作品が出題される」という「強運」を発揮して福島県に戻って来ることになる。

★「日本史の教科書をポロポロになるまで隔から隔まで覚えた」「英語は単語と読解」ここに難関私大合格のカギがある。日本史の教科書と英単語を徹底的に覚える！誰にも負けない得意教科を持つ！勉強漬けになる！今日から君たちも、ポロポロの教科書・英単語帳になるまで、勉強漬けになってみないか。

## 使える刀となるために、錆びないように、自分の頭・体・心に常に磨きをかけよ！



学年末考査前の2年生の日本史の授業で、日本刀の話をする機会があった。刀の展示会に足を運ぶと、刀という武器の機能性や芸術性の奥の深さにどんどん魅了される。それと同時に刀と人間が似ていることにも気づかされ、君たち南会生と刀が重ね合わせて見えてもくる。はるか昔の武士の時代、刀は弓矢や槍に比べると殺傷能力は劣るものの、自分を守るための基本的な携帯アイテムであった。名刀も名人もたくさん生まれ、刀が武士と強さの象徴であった。刀がいかにか日本人と古くから深く結びついているかは、下記に記載した刀がらみの言葉が多数あることからもうかがい知れる。しかし、刀は磨く努力を怠ると「身から出た錆」、どんな名刀でさえもすぐに錆ついてしまい、相手を倒す武器とはなれない。まさに君たち高校生も刀と同じで自分を磨く努力をしなければ「身から出た錆」状態にどんどんなってしまう。①頭を磨く(勉強・読書→教養・思考力・創造力)、②体を磨く(部活動・食事・早寝早起→体力・持続力・身体能力)、③心を磨く(時間・ルールの厳守、清掃・立ち居振る舞い・身だしなみの励行遵守→向上心、積極性、気力、忍耐力、思いやり、協調性、公共心、平常心)を実行し、使える刀として学校や会社から採用してもらうことが大事だろう。けっして名刀や切れ味鋭い刀になる必要はない。学校や会社が使いたいと思える「個性のある錆びついていない使える刀」にはなればいい。ぜひ、頭・体・心の自分磨きに邁進してほしい。まずは、毎日しっかり「勉強・食事・運動」することだ。

## 復習しよう！日本史の授業で勉強した刀にまつわる用語・ことわざ

★元の鞘に収まる ★単刀直入 ★一刀両断 ★諸刃の剣(両刃の剣) ★助太刀 ★相槌を打つ ★鏝迫り合い ★金鏝 ★焼きを入れる ★目貫(抜)通り ★抜き差しならない ★おっとり刀 ★折り紙付き ★懐刀 ★反りが合わない ★両刀使い ※読めない漢字は自分で必ず調べること

### 1・2年生への檄！刀のことわざを使って～受験(進学・就職)の教訓⑦

- ①切羽詰まってから受験勉強しても、合格は困難。
- ②付け焼刃の受験勉強では太刀打ちできない。それはまさに身から出た錆。
- ③いつ抜き打ちテストがあってもいいように、常に復習することが大事。
- ④面接・小論文はきちんと鍛錬して臨まないと地金が出る。
- ⑤受験はクラスメートが鎧を削って勉強するのが理想。
- ⑥参考書・問題集は自腹を切らないと本気で覚えられないもの。
- ⑦伝家の宝刀とも言える得意教科を持つことが受験合格の鍵。

